



# 東北森林管理局 森林技術センター

平成18年  
秋号

## たより

〒037-0305  
青森県北津軽郡中泊町  
大字中里字亀山540-8  
TEL 0173-57-2001  
FAX 0173-57-4929  
E-mail: t\_gijyutu@rinya.maff  
.go.jp

### ヒバー斉型天然林における本数調整伐と後継樹発生状況との関係 について (その2)

所長 添谷 稔

日本三大美林の一つである青森ヒバについては、主に天然林施業による資源管理が行われていますが、通常の天然林施業では管理が難しい単層一斉林型の天然林が多く見られます。

ほぼ林冠が閉鎖した過密状態で、立木密度が高く、裸地化傾向にあるこのような林分を、適度な伐採により光環境を改善し、ヒバの後継樹や下層植生の侵入を促し、公益的機能がより高い林分へと誘導するための手法の検討を行っています。

春号でご紹介したように、択伐を行い林内に光を取り入れた箇所（20%伐採区と40%伐採区）と、そのまま放置しているところ（無施業区）では、光環境が大きく違います。

今回は春号に引き続き、昨年度より実施している下層植生調査の結果の一部をお知らせしたいと思います。

各調査区の下層植生本数の推移と総植生長（植物の高さの合計）の様子を図1と図2にまとめてみました。

暗いままの無施業区の植生は減少していますが、ヒバは現状のまま、暗さに耐えて生きているようすがわかります。じっとがまん強く成長のチャンスをうかがっている状況です。

一番明るい40%区では逆にヒバ以外の植物が非常に多く、ヒバは若干被圧され、成長が遅れているようです。

20%区では、ヒバの稚樹が大幅に増え、全体的な生育もいまのところ一番良いようです。しかし、一方でどの調査区でも、ヒバの上方向への成長量よりも横方向の成長のほうが勝っていることもわかりました。

ヒバは初期成長段階から旺盛な上方成長段階にいたるまで、4、5年から長いもので50年もかかるといわれています。

20%区はヒバの初期成長にとってはま

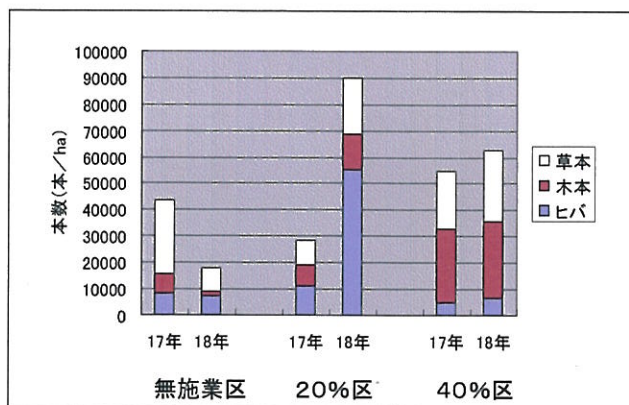


図1 各調査区の下層植生本数

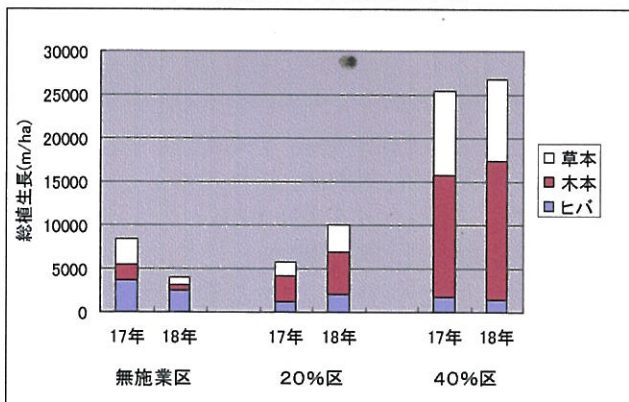


図2 各調査区の総植生長

ずまずのようですが、できるだけはやく上方成長期に誘導するための光環境については、さらに検討が必要です。また40%区ぐらい明るくなると、逆に下草の除去などの余分な仕事が増えてしまう可能性があります。放置したままだと、被圧によりヒバの旺盛な上方成長開始までの期間が長くなること示唆される結果となりました。

暗さにも、下草の被圧にも堪え忍び、決して他の植物にも迷惑をかけず、じっと成長のチャンスをうかがっているヒバ・・・そんな姿が伺えます。

なんだかヒバに人生を教えられているような気分です。

恒例の袴腰岳の中泊町町民登山が、9月28日に実施されました。中泊町よりの依頼を受けて当センターよりは副所長が森林インストラクターとして参加しました。今年は、旧小泊村からも初めて参加者をお迎えし、総勢14名で頂上をめざしました。

副所長はこれで5回目の袴腰登山だそうですが、過去4回はなぜかすべて天気が良くなかったとのこと（本当になぜでしょう・・・）。今回は無事快晴に恵まれ、頂上でも360度の眺望を楽しむことができたとのことホッと一安心といったところのようでした。

皆さん、おつかれさまでした。



### 中里小学校で森林教室を実施

～ 森林の働きと青森ヒバについて紹介～

10月10日、中泊町立中里小学校5年2組の3時間目に、森林技術センター所長による森林教室が行われました。

町内では、ホタルの生育環境の保全に取り組んでいますが、こうした環境を守る大切さを生徒さん達が学習する過程で、森林の働きに興味をもたれたようです。

当日は、スライドを用いて、

- ①「森林の役割や働き」
- ②「ヒバのもりへようこそ」

の2本立てで生徒の皆さんに、説明させていただきました。

森林がもつ公益的機能や日本三大美林の一つである青森ヒバの一生などに特に関心が高かったようで、みんな興味深く聞いてくれました。また、説明のあとの質問タイムでは、

「針葉樹と広葉樹ではどちらが水源を守る働きが高いのですか？」

「木を伐採するときはどんなことに気をつけていますか？」

など、研究分野の最前線から現場の労働安全問題まで、レベルの高い鋭い質問が次々と、とぎれることなく寄せられ、正直驚きました。

子ども達の純粋できれいな目が本当に印象的な一日となりました。



森林教室の様子（上下）

## ヒバ人工林施業の現地検討会

平内青森ヒバ研究会、森林総研東北支所、森林技術センター合同での、青森ヒバ人工林施業に関する現地検討会が、9月28日に青森県平内町で行われました。

当日は漏脂病発生林分、ヒバの単植え、列植え箇所を中心に検討を行いました。特にヒバの漏脂病については、林家の方々の関心も高く、防除のための密度管理の在り方などにつき意見交換が行われました。

漏脂病については、ヒノキに関し、その発現機構が明らかになっていますが、ヒバでは明らかにはなっていません。青森県内でヒバの人工造林が近年盛んに行われてきていることから、まずは、その被害実態

の十分な把握が必要と思われます。

また、ヒバの単植えについては、造林コスト、針広混交林化の観点から引き続き当センターも含めた産官学連携により、推進していくことなどが確認されました。

今後は、植え付けの省力化のみならず、その後の育林作業の省力化を計るための単の配置の在り方などを検討していきたいと考えております。

とにかく印象に残ったのは、ヒバ研究会の皆さんの熱心さ・・・我々も見習いつつ、今後とも交流を深めていきたいと考えております。



ヒバの挿し木造林地の林況



最後に記念撮影

## 増川施業実験林の現地検討会

10月19日に青森森林管理署主催による増川ヒバ施業実験林の現地検討会が行われ当センターも参加しました。参加者皆、スケジュール多忙なため、現地検討にはわずか2時間しか時間がとれず、じっくり現地をみる余裕がなかったようですが、そのかわり青森署で充実した資料を準備していただいたおかげで、現地の現況がよくわかりました。

特に小径木が多く中径木が少ない点が検討の対象となりました。ヒバ天然林では中径木が成長の担い手であることから、今後径級毎の理想的な本数比に誘導していく施業が必要である点が確認されました。



過密な小径木主体の林分（増川実験林）

## 松林防除研修に参加

(財)日本緑化センター主催の松林防除研修が9月28日～29日に秋田市で開催され、当センターよりも参加しました。

青森県境直前まで被害が迫っていることもあり、青森県からの参加者が非常に多い研修となりました。第1日目は講義が行われ、寒冷な東北地方では、発病までの期間が長いため、年を超えて枯れるマツが多く、マツノマダラカミキリの寄生を受けていない被害木が多数存在しているという特色に着目し、新たな発生源となる、カミキリの寄生を受けた被害木のみを確実に伐倒駆除するという、いわゆる「秋田方式」に関する講義が行われました。

2日目は、夕日の松原で野外実習が行われ、被害木調査、松脂滲出調査などを実際に行いました。また、燻蒸処理やチップーによる破砕処理のデモンストレーション



燻蒸処理デモの様子

、マツノザイセンチュウの顕微鏡観察、カミキリの天敵であるアカゲラのねぐら用巣箱の作成など、盛りだくさんの内容でした。まさに体で覚えるという願ってもない内容で非常に理解が深まりました。

## 中泊町民祭へ出展参加

11月3日に恒例の中泊町町民祭が開催され、当センターも例年通り出展しました。

落ち葉しおりとネームプレートの制作コーナーは大変盛況で、途中で材料が品切れになってしまうほどでした。

中泊町公民館で開催された写真展では町内のアマチュア写真家のすばらしい作品

が展示され、当センターよりも、川村班長が作品を出展しました。「秋の風」と題した3枚一組の作品です。

他にも自然を題材にしたすばらしい作品がいっぱいで、久しぶりに文化の日らしい一日が過ごせました。



ネームプレート作成コーナー



当センター川村班長とその作品

## 編集後記

短い夏はあっというまに過ぎ去り、これからは寒くなる一方だと思いと若干気が滅入ってしまいます。いまセンターは、技術開発データ解析特命チーム（といっ

ても所長とT係長の2人）を設置し、膨大かつ曖昧な過去10年分のデータに呆然としながらもなんとか日夜コツコツとこなしています。冬号は出せるかな・・・？